

WS046 がんと心理学（1）
-意思決定研究の現場への応用について考える-

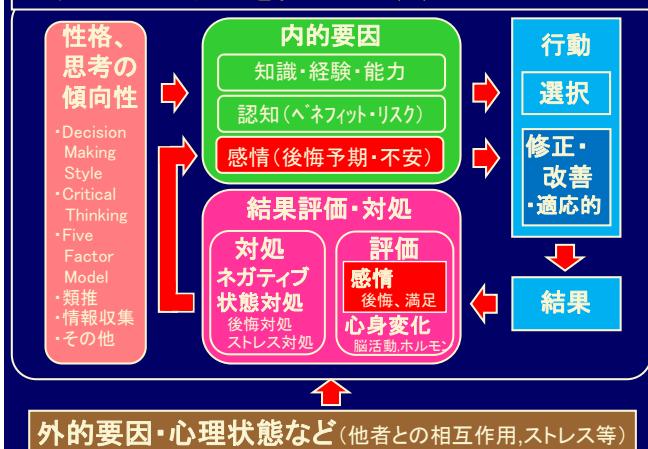
意思決定に影響を及ぼす感情について
-後悔の影響とその対処を中心に-

上市秀雄
筑波大学システム情報系

全体の流れ

- フィードバック処理を含む意思決定プロセスのモデル
- 意思決定に影響を及ぼす要因
 - ・認知要因、および感情要因の影響について
- 結果・評価フィードバックプロセス
 - ・ネガティブな感情要因影響
 - ・ネガティブ感情の対処（特に後悔対処）
 - ・適応的行動の促進
- 今後の課題
 - ・実験、シミュレーション等による検証の必要性

フィードバック処理を含む意思決定プロセスモデル



意思決定に影響を及ぼす要因

- Zuckerman(1994)
 - ・**刺激欲求**(sensation seeking)
 - ・行動: スカイダイビングなどの行動だけでなく、性的行動、喫煙、ドラッグなどの行動を好む
- Kogan (1965)
 - ・熟慮型 (reflective)
 - ・行動: 反応は遅い。誤りは少ない
 - ・内向型 (introverted)
 - ・行動: 反応は遅い。誤りが多い
 - ・衝動型 (impulsive)
 - ・行動: 反応が早い。誤りが多い

5



● 上市・楠見 (2004)
(ビニエット法)

- ・分析型(熟慮型)
 - ・一時的利得状況
(スキー・株投資)
「行動しない」を選択
- ・直観型(衝動型)
 - ・長期的利得状況
(受験、恋愛)
「行動する」を選択

意思決定スタイルと行動の選択率(%)
(大学生70名)

	直観型		分析型	
	行動	非行動	行動	非行動
受験	84.6	15.4	51.6	48.4
恋愛	78.1	21.9	52.6	47.4
転職	80.6	19.4	74.4	25.6
スキー	46.9	53.1	15.8	84.2
株投資	26.3	73.7	25.8	74.2
合計	62.8	37.2	44.6	55.4

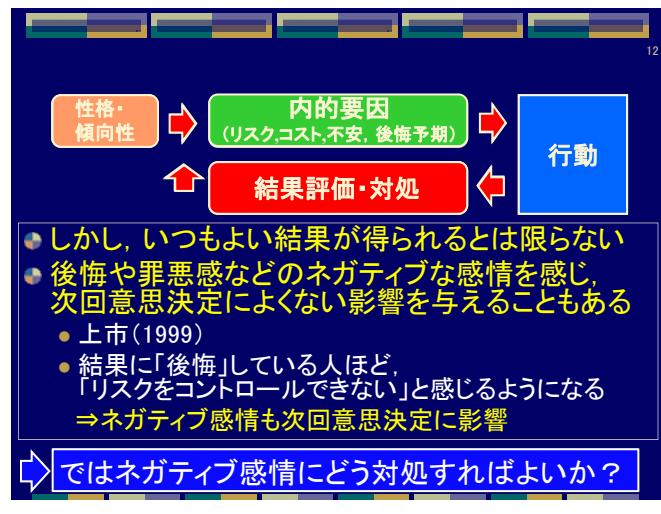
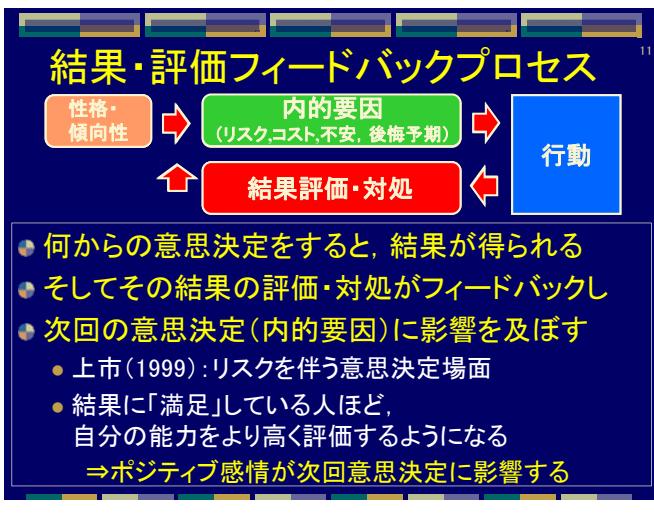
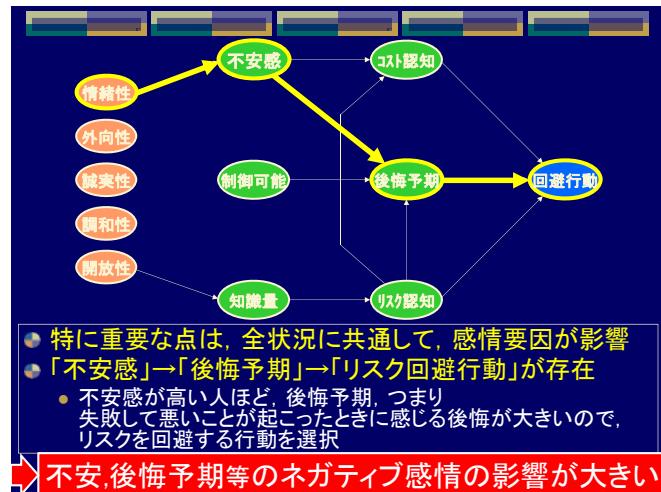
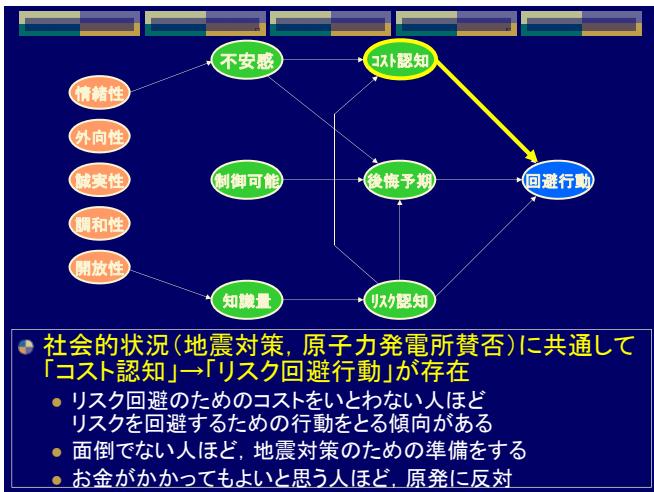
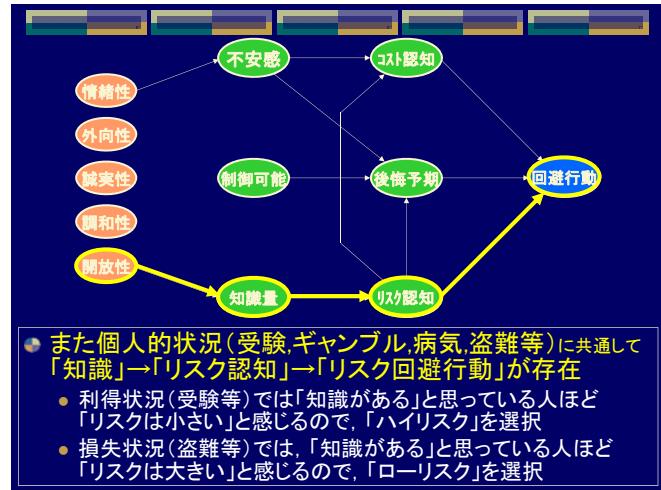
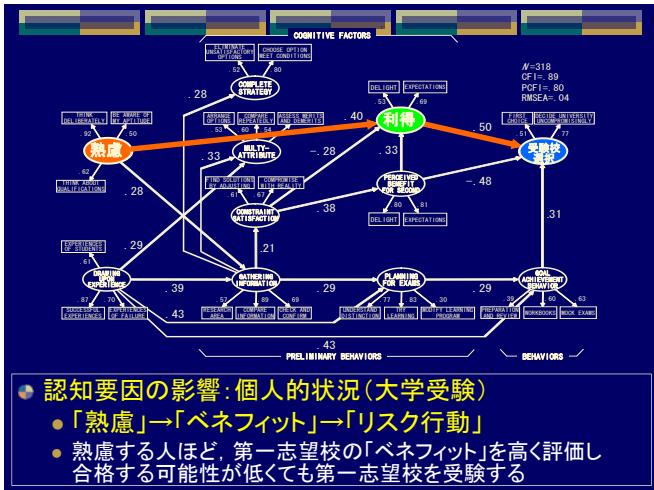
● 上市・楠見 (2000)

- ・リスク状況を体系的に分類
- ・以下の8つの状況に共通の要因を用いてリスク回避行動を規定する要因間の関連性を検討

個人的状況	損失状況		利得-損失状況			
	身体的	金銭的	人生	身体的	金銭的	人生
病気				スキー	ギャンブル	受験
盗難				原子力発電所の賛否		
解雇						

6





ネガティブな感情(後悔)の対処法

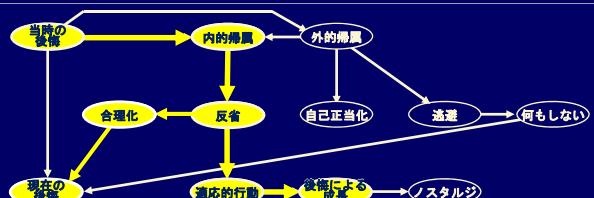
- 1: 後悔しないように「熟慮」して意思決定する
 - 高校生の進路決定(大学進学or浪人)に関する後悔(楠見・栗山・齊藤・上市, 2008; 上市・楠見, 2004)
 - 熟慮型**
 - 「後悔が少ない」
 - 次は失敗しないように「努力する」
 - よい経験になったと「合理化する」
 - 衝動型**
 - 失敗を「合理化」しにくい
- 結果 後悔
-
- 卒業時 5ヶ月後

- 2: 後悔した場合には、「合理化」等の適切な対処で、後悔を低減することが可能
 - 後悔対処法(楠見・栗山・齊藤・上市, 2008; 上市・楠見, 2004)
 - 合理化することで、後悔が低減
 - 失敗も「よい経験になった」、「今後の人生に役立つ」と思う人ほど、当時と比較し、現在の後悔感が少ない傾向がある

後悔を避けるためには、熟慮して意思決定し
後悔した場合には、合理化するとよいかも

さらに、ネガティブな感情を生かすには

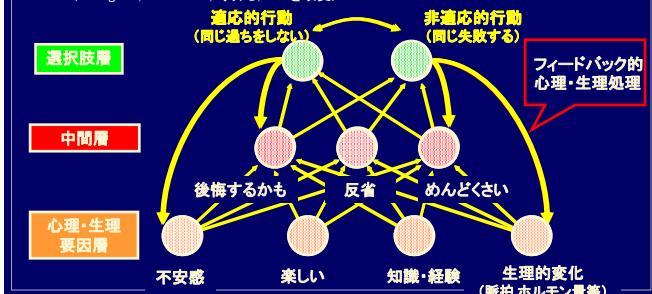
- 上市・通谷(2012:明日10:00ポスター発表), Ueichi(投稿中)
 - 後悔(あるいは罪悪感)を感じた出来事について
 - その原因を自己に帰属(例:自分のせいだ)させ
 - 反省(自分の行いを見つめ直した)することで、
 - 適応的行動(同じ失敗を繰り返さない)を促す可能性あり



悪い結果を受け止め、反省することが重要かも

今後の課題

- 様々な意思決定場面で、感情や認知、生理要因等が相互作用、フィードバックするプロセスの検証
 - 実験、シミュレーション等で実証する必要性
 - 例: ニューラルネットワークによる検討
(Nakagawa, et al. 2002; 寺井ら, 2002を改変)



参考文献

- Fraenkel L, et al. (2005) What do patients consider when making decisions about treatment for hepatitis C? Am J Med 118: 1387-1391
- Gilovich, T., & Medvec, V. H. (1995). The experience of regret: What, when, and why. *Psychological Review*, 102, 379-395.
- Janis, I., & Mann, L. (1977). *Decision making: A psychological analysis of conflict, choice and commitment*. New York: The Free Press.
- Kagan, J. (1965). Impulsive and reflective children: Significance of conceptual tempo. In J. Krumholtz (Ed.), *Learning and the educational process*. Chicago: Rand McNally. Pp.133-161.
- Nakagawa, M., Terai A., Ueichi, H., & Yajima, M. (2002). The neural networks model of decision-making including feedback processes. *Proceedings of the Sixth International Conference on Cognitive and Neural Systems* (Boston University), #22.
- 楠見季・栗山直子・齊藤貴浩・上市秀雄(2008). 進路意思決定における認知・感情過程: 高校から大学への進路調査に基づく検討キヤリア教育研究, 26(1), 3-17.
- Radford, M., & 中根允文(1991). 意志決定行為: 比較文化的考察. ヒューマンティワイ.
- 寺井あすか・矢島基充・上市秀雄・中川正宣(2002). ニューラルネットワークモデル: オンライン実験データに基づくモデル構成. 日本認知科学会第19回大会発表論文集, 176-177.
- 上市秀雄(2003). 個人のリスク志向・回避行動の個人差を規定する要因の分析. 風間書房.
- 上市秀雄(2012). リスク認知の個人差(4章). 中谷内一也(編著)「リスクの社会心理学: 人間の理解と信赖の構築に向けて」有斐閣. pp.69-85.
- Ueichi, H., Kuriyama, N., Saito, T., & Kusumi, T. (2012). Effects of the Deliberate Decision-making Style on Career Decision-making Processes and Coping with Regret after High School. *Psychologia: An International Journal of Psychological Sciences*, 55, 28-44.
- 上市秀雄・楠見季(2000). 後悔がリスク志向・回避行動における意思決定に及ぼす影響: 感情・パーソナリティ・認知要因のプロセスモデル. *認知科学*, 7(2), 139-151.
- 上市秀雄・楠見季(2004). 後悔の時間的変化と対処方法: 意思決定スタイルと行動選択の関連性. *心理学研究*, 74(6), 487-495.